

7.

中国道 広島県吉和 緑の高原に世界の名品が揃うウッドワン美術館 話題となったルノワールの名画2点の搬入を見る



中国道 緑の中国山地 広島県吉和 IC ウッドワン美術館 2005.6.15.



6月初頭 TV が絵画のオークションでルノワールの婦人像 2 点が 3 億 1 千万円で落札されたことを伝えている。

広島の建材メーカーの美術館 ウッドワン美術館。

以前にもゴッホの「農婦」を落札。洋画・日本画の大コレクションを有している。そして 家内が見たがっているアールデコ「ガレのガラス工芸」のコレクションも素晴らしい。

家内が TV を見ていて是非一度行きたいという。

「山口へ行く時に 中国道で行ったら すぐや」と俄然その気になって、6月15日朝 山口美祢への途中で立ち寄ってきました。

それも 思いがけず 6月初頭東京のオークションで落札されたルノワールの絵の搬入に出会い、搬入・荷解きから仮展示をもう眼をこらしてみてきました。もう二度とこんなことないでしょう。

ほんとビックリ。また 緑の中に建つ美術館 ほんとうにゆったりお茶しながらの名品鑑賞でした。

2005.6.15. 中国道 吉和 ウッドワン美術館で



ルノワール

婦人習作と花かごを持つ女



ウッドワン美術館 パンフレットより 世界の名品

上段 ゴッホ「農婦」岸田劉生「麗子像」中島千波「桜」

下段 ガレ&ドーム兄弟のガラス工芸品

神戸から山陽自動車道を3時間ちょっとで広島。いつもは宮島の方へ行くが、広島 IC から北へ中国道に向か

って山の中に入って行く。トンネルを抜け、15分ほど山また山の中で中国道と合流する。東へ行くと千代田ICであるが、西へ山口方面へ。中国山地の奥深い山中 緑の中 ほとんど交通量がなく、緑を独り占めの感じで目的の吉和ICへ向かう。

戸河内・加計ICの標識が見える。このあたりは 広島の太田川の源流近く芸北の最高峰恐羅漢山や冠山の聳える中国山地有数のたたら製鉄地帯で緑の山間を縫って道がつづく。広島から30分ほどで吉和IC。ICの北側に頂上付近からゲレンデが広がる大きななだらかな山が見え、その麓の緑の中に吉和の集落が埋もれていて、車も人影もほとんどなし。

こんな山中に美術館と思うが、材木の集散地 昔この吉和近隣の山から大量の木が切り出され、加計・戸河内のたたらに使われたという。多分 建材会社ウツドワンの古里なのだろう。

高原別荘の街 吉和のPR看板に混じってウツドワン美術館の標識が北の大きな山のスロープを示す。



女鹿平山というそうであるが、この山のスロープの一角にスキー場・温泉・リゾートホテルと共にウツドワン美術館がありました。

正面には樹齢1000年を越えるとしてつもなく大きなオーストラリアの樹木の切り株が置かれ、建物がすべて緑の中に埋もれ、人が居ないせいもあって 落ち着いた自然の中 ぼけっと一日山を眺めていたい場所でした。



女鹿平高原とウツドワン美術館

2005.6.15.

美術館には平日であったこともあって、ほんの数人。

びっくりしたのですが、すごい名画が沢山あり、広々とした空間に展示され、名画の前にすわって鑑賞できるようになっていました。

別棟にはガレのガラス工芸品・マイセンの陶芸品が集められ、こっちも素晴らしい。

本当に絵や工芸品が好きの人がこのコレクション 美術館作りをやったと伝わる美術館。

地方でないとこんなにゆっくりみれないだろうと・・・・・・・・・・・・・・・・

家内はガレのガラス工芸とゴッホそして中島千波の絵に 私は数々の明治の洋画と日本画にもう満足。



ウッドワン美術館 パンフレットより 世界の名品 (詳細は <http://www.woodone-museum.jp/home.html> どうぞ)



ルノワール「婦人習作」と「籠を持つ女」
(写真はインターネットより採取)

入口にさりげなく、今日 東京で落札したルノワールの婦人像2点(「婦人習作」と「籠を持つ女」)が到着。4時には公開できるとの張り紙。

名品の搬入に出会えるなんてまたとないチャンス。それも この場にいるのは多くても10人たらず。

隣のレストランで遅い昼食とお茶をしながら待つ。

四時少し前に品川ナンバーのワゴン車が来て、細長い箱が2個運び込まれる。あっけないほど静かに美術館に搬入され、2階の廊下の奥の狭い部屋の壁に2枚の絵が立てかけられ、「随時 見ても良い」という。

「ええ もう いいの・・・」という感じで 一番先に絵の前へ。

「ルノワールのあの明るい光の「婦人のほっぺ」がこの絵では少し暗いなあ習作やからか・・・」とっていると「壁に立て掛けただけで、光線の当て方など調整していないので、ちょっと印象ちがうでしょう」という。

「なるほど なるほど」である。

本当に無造作というほどあっけなく壁に立て掛けられた名画何の演出もない名画を見られるとは二度とないだろう。

その場に居たのは約10名ほど かわるがわる黙って絵にみいる。

「立て掛けられた絵の証拠写真撮っいたら良かった」と思う気持とゆったりと生の名品を我が物で見られた満足の気分と半々。こんな機会許してくれた美術館 素晴らしいですね。

絵を待つ間 周りを散歩していると温泉の泉源に「この女鹿平温泉は奈良時代 8 世紀初めからの温泉で、直ぐ下のお社にこの湯を出したと伝えられる大己貴命（大国主命）が祭られている」との案内板。

「やっぱり ここは古代の製鉄地帯の一角では・・・」と。

鉄とのかかわりにもうれしくなっていました。

緑一杯の山を眺めながら いろんな世界の名品を鑑賞できた喜びをもう一度かみしめ、中国道を山口へ



ちょっと遠く不便なところですが、一日かけて行くにたる素晴らしい美術館でした。

2005.6.15. Mutsu Nakanishi